

# 平塚ロゴゴマスク人気

平塚市内の障害者福祉施設の利用者らが手作りした商品を販売する同市役所1階の福祉ショップ「ありがとう」で、同市のロゴマーク付きのマスクが人気を集めている。「平塚のオリジナルマスクを作りたい」と、市とのコラボレーションで7月から販売開始したところ1日約80枚を売り上げるなど好評。障害者が新型コロナウイルスの感染防止とシティーセールスの「一石二鳥」に一役買っている。

(深沢 剛)

## 5障害者施設手作り

新たに販売を始めたマスクのロゴマークは2種類。「手をつなぎたくなる街」のロゴは握手する手に泡が付き、手洗いによる感染予防を呼び掛ける特別バージョンで、シールをアイロンでプリントした。市が会員制交流サイト(SNS)のキャンペーンで使用している「#hiraatsukagood」のロゴはミシンで刺しゅうした。

新型コロナウイルスの感染拡大を背景に「ありがとう」では3月からマスクの販売に着手。マスクの品薄状態が解消されても販売は好調で、これまで1万枚以上を

## 感染防止と市のPRに

売り上げた経緯があった。新たなロゴ入りマスクは、ショップの運営協議会の高橋眞木会長が「周辺の市町村には地元オリジナルのマスクがあるのに平塚はない」と企画。5カ所の施設で生産を7月末から販売を開始した。市職員や来庁者らが幅広く買い求め、「手をつなぎたくなる街」のマスクは生産した500枚が2週間ほどで売り切れ、さらに500枚を増産した。「ここまで好評になるとは。みんな平塚市民で平塚のことが好きなのかな」と高橋会長。市担当者も「今までとは別の角

度からシティーセールスになる」と歓迎する。マスクを作る施設の一つ「サンメッセしんわ」の秋本美奈子さん(33)はアイロンがけの仕事を担当し「自分たちのマスクを着けている人がいるとやりがいいに感じる」と笑顔。「貴峯荘」

の鈴木正代さんは「作るのは楽しい。みんなに使ってほしい」と呼び掛けている。「ありがとう」は7月で6周年を迎え、高橋会長は「マスクが売れたことで障害者にも施設にも自信がつき生産量も上がった。平塚のマスクを作れるのは誇り」と話した。マスクは1枚300〜500円。ショップは市役所開庁日の午前10時から午後3時半まで営業している。

## 500枚売り切れ、500枚増産



平塚市のシティーセールスのロゴマークが付いたオリジナルマスク  
＝同市役所